

GFSC 希望の チャリティープロジェクト

(文化芸術を通じた夢・希望東日本復興推進プロジェクト)



文化芸術を通した夢・希望プロジェクト

当法人が推進しているGFSC（Good Friends Save the children）は、文化芸術を通し、アジア貧困地域子供教育支援及び東日本復興支援活動に実質的な手助けと、希望と勇気を後援者の皆様の温かいご声援のもとに、真心をこめた「文化芸術を通した夢・希望プロジェクト」をお届けしています。

国内活動



3.11 東日本大震災の発生により、被災地の子供・家族・崩壊されたコミュニティーへの支援ができなかと考え、宮城県東松島の復興祭支援、宮城県で犠牲になった子供の鎮魂と復興のシンボルとする「**青い鯉のぼりプロジェクト**」、そして宮城県で最も被害の大きかった石巻市雄勝中学校の皆さんに伝承されてきた太鼓を通して希望・夢をもていただくべく和太鼓支援及び指導者派遣のワークショップを支援する「**希望の和太鼓プロジェクト**」、三陸で被害が大きかった岩手県大船渡では、破壊されたコミュニティーの中、韓国語を通して仮設住宅に住む住民たちの交流と心の癒し「**希望のコミュニティ形成プロジェクト**」を推進してきています。



海外活動



- ・モンゴル食水・希望の教室支援プロジェクト
- ・ネパール希望図書館建設支援プロジェクト
- ・カンボジア教育環境・希望の教室支援活動

アジアの厳しい環境にある子供たちが、貧困状態から抜け出し夢を叶えてほしいとの願いから、希望の教室（放課後の教室）運営、奨学金支援、食水（井戸掘削）支援、そして図書館建設、トイレ建設などの教育環境を整え、子供達に希望と勇気を与え美しい一つのアジアを作る未来指導者を育成して行く、グッドフレンズプロジェクトを推進してきております。

アジアの厳しい環境にある子供たちが、貧困状態から抜け出し夢を叶えてほしいとの願いから、希望の教室（放課後の教室）運営、奨学金支援、食水（井戸掘削）支援、そして図書館建設、トイレ建設などの教育環境を整え、子供達に希望と勇気を与え美しい一つのアジアを作る未来指導者を育成して行く、グッドフレンズプロジェクトを推進してきております。



GFSC 文化芸術による東日本復興支援プロジェクト ＜国内支援活動＞

Pray for Japan

東日本チャリティーキャンペーン

2011.5.14 当プロジェクトは震災後初の
＜Pray For Japan＞のテーマでGFSC東日本チャリ
ティーキャンペーンを避難所であったさいたまスー
パーアリーナで開催する中で日韓両国多くの方々から
の東日本大震災復興へ応援メッセージと激励を受け、
本格的にスタートした。



GFSC東松島市がんばっぺみんなで夏祭り支援



2011.7.23 東松島市の震災後初の＜が
んばっぺみんなで夏祭り＞に
生活日用品および韓国料理炊き出しや韓
国文化芸術者の派遣など地元の方々との
日韓交流と復興に貢献できた＜東松島市
より2012.3.11感謝状授与＞



GFSC 希望の和太鼓プロジェクト I <宮城県>



復興支援調印式



古タイヤで太鼓を練習する生徒たち

2011.7.22 当法人と雄勝中学校、地元支援団体と三者による希望の和太鼓プロジェクト復興支援調印を取り交わし、まずは**和太鼓贈呈、和太鼓ワークショップ**を通して、太鼓を打ちながら子供達の心が癒され、**たくましくなりたいという心のケア**と町復興、そして日韓交流を通し大震災のトラウマを乗り越える支援活動を開始した。

日韓交流企画による、KMF2011 雄勝中の輪太鼓発表の場



2011.9.19 GFSCチャリティイベントKMF2011に雄勝中学校の生徒は地元から東京に初招待され、日頃培ってきた太鼓演奏の発表の場を提供された。

「これが全てのはじまりでした」と教員の一人が感慨深げに語られたように石巻市からの初の遠征でした。

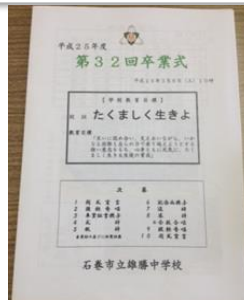
彼らの演奏する黒船太鼓の力強い演奏は韓国のトップアーティストの音楽に勝るとも劣らぬ感動を観客に届け会場から割れんばかりの拍手が贈られた。

翌20日は都内の中央区立 **佃中学校生徒と初の太鼓による交流に協力した**

この行事がマスコミにも取り上げられ、これによりさらに交流が広まるきっかけになった。

GFSC希望の和太鼓プロジェクト I -1

(3年間寄り添った子供たちの卒業と感謝状の贈呈)



2011年4月、震災の混乱と悲しみの中、011年4月、震災の混乱と悲しみの中、夢や希望も見いだせず、私服で入学式を迎えざるをえなかった新入生が2014年3月8日(土)16名、雄勝中学校を巣立った。

“GFSC希望の和太鼓プロジェクト”として3年間寄り添った生徒たちの、凜とした中にも心温まる素晴らしい卒業式・卒業をみんなで祝う会が挙行された。

地元に伝承された“和太鼓”を基に音楽という文化芸術を通じた復興推進により子供達の笑顔が輝いた。

校長先生より当法人のGFSC希望の和太鼓プロジェクトに対し“東日本大震災以降継続して雄勝中学校生徒の為に格段の尽力をせられ生徒の心豊かな成長を願い復興と教育の振興に寄与されました。”と当NPO法人に感謝状が贈呈された。



“3年間を振り返って”との卒業生の発表では、ある生徒は“太鼓との出会いが1番の思い出だった”と、そしてある生徒は“行けると思わなかった韓国に行け、交流を持てたことが最も良い思い出！”と語った。

当NPO法人への感謝の寄せ書き



特別に雄勝中学校に贈呈したオリジナル曲“ねがい～たくましく生きよ～”



故郷伝統曲“伊達の黒船太鼓”



笑顔いっぱい友人と語り合う雄勝中の子供たち



当法人へ感謝をこめて花束の贈呈

「太鼓が大好きです。」日韓さんから贈られたねがい～たくましく生きよ～の曲“が大好き”の言葉に続き、雄勝中学生として最後の太鼓演奏が行われた。太鼓という“よりどころ”を持つことで仲間と共に希望・夢に向かい、今は朗らかな微笑みに輝く卒業生の姿があった。

GFSC希望の和太鼓プロジェクト I -2

希望・夢 韓国修学旅行Present(2012. 8. 19~23)



韓国三政中学校と日本雄勝中学校の学生たちはお互い太鼓を叩きながら交流し友情を深めた。



日韓関係が政治的には厳しいけれどこんな時こそ民間交流は大事であると語るソウル市長



多くの日韓のメディアがこの行事取材しながらいまこそ、民間交流の継続性の重要性を訴えた。



韓国仁寺洞広場での日韓の伝統楽器交流が出来た歴史的な日韓文化交流公演



日韓文化交流によって私たちは友人になりました！

雄勝中学校全生徒は今回の希望・夢韓国の旅プレゼントによって津波の記憶に美しい友情の花が咲いた。



韓国の古宮である昌徳宮を観覧しながら歴史も勉強



ロッテワールドで楽しい時間

2014.3月 東日本大震災で被災した石巻市雄勝中学生・同卒業生たちが仙台市(3月13日)と東京都(3月20日)で開かれるコラボレーション音楽会「**世界がわが家**」に出演した。

この音楽祭はミュージカル「レ・ミゼラブル」などで知られる英国人演出家ジョン・ケアードさんが趣旨に賛同しボランティアで演出を担当した。アフリカの遺児支援と東日本大震災の犠牲者鎮魂の思いを込め、雄勝中学生の力強い和太鼓演奏と米国・バツサー大の学生のコーラス、ウガンダの子どもたちの歌や踊りの競演と、国際色豊かなステージを披露した。

2011.3.11の被災後、希望も笑顔もなくなった子供たちが、輪太鼓を通して“KMF2011”での初舞台、“希望・夢韓国修学旅行”を経験し、“自分たちも頑張れば国際交流も人を勇気づけることもできるんだ”との自信を見出し、たくましく成長した姿だった。



音楽会に向け、太鼓の練習に励む雄勝中の生徒たち。
生徒たちは「同じステージで異国の文化と触れ合えるのが楽しみ」と本番を心待ちにした。

「世界がわが家」の舞台に向け練習に励む雄勝中学生



ウガンダの子供たちの元気溢れるダンスに合わせて輝く笑顔で太鼓を演奏！

音楽会のタイトルには「どんなに苦しいことがあっても世界中の人たちが家族のように応援している」というメッセージが込められている。15年には米国、欧州、アフリカを回る世界ツアーも計画しているようだ。

世界に羽ばたけ！雄勝中のみんな！



宮城県被災地の子どもたちが岩手県の被災地を激励

2014.9.28

当法人が支援する岩手県大船渡夢さんま祭りに石巻市雄勝中学校3年生は片道3時間を掛けての遠征応援に駆けつけた。

その太鼓の演奏は聞く人の心を勇気づけた。

雄勝中学生は震災直後より太鼓やワークショップ・オリジナル曲(ねがい〜たくましく生きよ〜)を提供した当法人へ感謝の気持ちを込め、その恩返しが出来たら嬉しいと語った。

そして、自分たちも震災で全てをなくしたが、太鼓を打つことで希望をもって元の生活を取り戻してゆきたいと話す。苦難を乗り越え、人を勇気づけるまでに成長した雄勝中学生のたくましい姿が見て取れた。

GFSC青い鯉のぼりプロジェクト II <宮城県東松島市>

2011年3月11日東日本大震災の日に、伊藤健人君は母と弟、祖父母、最愛の家族を4人亡くしました。
享年5歳の弟、律君は毎年5月5日に「青い鯉のぼりは僕だね！」と言って鯉のぼりを揚げるのを楽しみにしていたと言います。
兄の健人くんは小さな弟の亡骸に直面した時、この声が耳元で蘇り、崩れた自宅跡から青い鯉のぼりを探し当て庭に揚げました。
天国で寂しくないように祈りを捧げながら……

青い鯉のぼりと東日本大震災復興と追悼の邦楽コンサートM's Japan Orchestra

2011年



2011.9.25当法人が共催者として協力する雄勝中学校、太鼓の指導者である地元芸術団体による青い鯉のぼりプロジェクトM's Japan Orchestraの震災後初のコンサートに当法人は韓国芸術者の派遣や炊き出し支援を行い参加各団体と日韓交流を持った。地元支援者に勇気と希望を与え復興再生の力を与える地元初イベントとなった

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol. 2

2013年

2013年5月5日 東松島市地元の方々、文化芸術者団体太鼓チームと共に、この集いが天国に逝った子供達の追悼と災害復興のシンボルとしての<祭り>となるよう協力団体として支援活動を行う。

震災後、住民はかつての故郷を離れての生活を余儀なくされ、故郷の地に足を向けることもない。

<祭り>の場としてこの地に集まり、伝承されてきた故郷の太鼓演奏を聞きながら、再び語り合い、共に過ごす時間の共有が崩壊したコミュニティの再生に繋がればとの願いをこめて、韓国食文化交流も含め、我々は集まった方々に韓国食(チヂミ・トッポッキ)を提供した。

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol. 1

2012年



住民のみなさんが故郷に戻って来ました。一緒に掲揚作業をし、一緒に瓦礫の大地に腰を降ろし、語り合いました。



力を合わせて鯉のぼりをつなぐ

食の文化交流 トッポッキを召し上がって！ 美味しいですか？」「最高！！」

天国の子ども達へメッセージで青い鯉になる

全国から送られた数百(522匹)の青い鯉のぼり。

大空に泳ぐ鯉のぼりを天国の子供達も笑顔で見ているだろうか？

故郷の地に腰を下ろし共に食事を取り、隣り合う人々が言葉を交わす。音楽に耳を傾け、そこには心癒す時間があった。

大きな災害の後に見出せた人の絆は復興への原動力だ。応援に集まった人々もまた、大きな力を貰った一日であった。



故郷の太鼓に心を癒す



GFSCが支援している雄勝中学校の皆さんと再会の記念写真



心をひとつに！また来年会いましょう

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol. 3

2014年

2014.5.5. 今年の宮城県東松島市大曲浜は震災復興事業の為に地面のかさ上げ工事が進む中、今年も3.11より順次、揚げられた400匹の青い鯉のぼりが風に乗って元気に泳いでいた。

この日集まった地元の方、ボランティアで残り200匹の鯉のぼりを揚げ総計600匹の鯉が空を青く染めた。



震災で亡くなった子供達の追悼と震災復興の願いをこめてオリジナル“青い鯉のぼり”を作成し伊藤健人君に贈呈



当法人も賛同協賛した家族の思い出が詰まった実家の樫の大黒柱を使った再生太鼓を作成し伊藤君に贈呈。「皆さんの温かい思いが形になった太鼓を頂き言葉にならないほど嬉しい。明日からの活力になります」と答えた。

震災後、彼の大きな支えとなったのは音楽だった。



子ども達もたくさん参加



韓食“トッポッキ”と“おでんスープ”炊き出し



美味しい～！



絆を未来に広げよう！また来年会いましょう

2015.5.5.宮城県東松島市大曲浜は復興事業の地面のかさ上げ工事は昨年よりさらに進み、今日を待って鯉のぼり掲載地区もかさ上げ工事が進められることとなる。当NPO法人日韓文化交流会スタッフ及びボランティア参加者たちで今年も震災で亡くなった子どもの追悼、震災を風化させない決意、コミュニティ再生を目指し、予てより手を携える諸芸術団体と共に支援活動に爽やかな汗を流した。



発起人である伊藤健人くんと懐かしい再会。応援くださる当会の会員・GFSC後援者のメッセージが書き込まれた鯉のぼりを寄贈



宮城県の太鼓チーム演奏はふるさとの大地に轟いた



前日までに掲げられてた500匹の鯉のぼりに、当日300匹余りの鯉のぼりの掲載を手伝い、今年は800匹を超える鯉のぼりが天高く晴天の天空を元気に泳いだ。



仮設住宅に暮らす皆さんにキムチ鍋とラッポッキを炊出し。美味しいと好評頂き瞬間に各200食完食！！

また会いましょう！心をついに！絆をもって辛い悲しい震災の記憶も未来の防災の知恵に！人と人の絆こそ明日への希望の種だから・・・！



2016.5.5.今年も復興事業による嵩上工事のため、昨年までと会場を変え大曲浜共同慰霊碑のある宮城県東松島市萬寶院仮本殿前において“GFSC青い鯉のぼりプロジェクト支援”として、震災で亡くなった子どもの追悼、震災を風化させない決意、コミュニティ再生を目指し、予てより手を携える諸芸術団体と共に今年も支援活動に爽やかな汗を流した。



韓国おでんとおなじみになったトッポッキ。「今年も楽しみに来ました！」とのトッポッキファンの方とも嬉しい再会。



発起人伊藤健人さんが自ら描いた青い鯉とクマモンの絵柄の募金箱で声掛け。今年は、熊本地震災害協力として全額「全九州太鼓連合」熊本地震義援金窓口へ送金された。



宮城県内陸、沿岸部の太鼓チーム、歌手が参加。太鼓の音色はふるさとの大地に轟き、歌声は天に届くかのように弾む。



2017.5.5.

宮城県東松島市は穏やかな晴天の朝を迎えた。

“青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会Vol.6”は、昨年に続き今年も青い鯉のぼりプロジェクト発起人 伊藤健人さんが暮らしていた大曲浜地区の共同慰霊碑のある萬寶院仮本殿前で開催された。会場には前日までに揚げられた鯉のぼりが五月の風の中、元気に泳いでいた。

当NPO法人日韓文化交流会札幌・東京スタッフ及びボランティア参加者で、今年も震災で亡くなった子どもたちの追悼、震災を風化させない決意、コミュニティ再生を目指し、予てより手を携える諸芸術団体と共に支援活動に爽やかな汗を流した。



今年の炊き出しメニューは韓国おでんと甘辛餅のトッポギ。韓国食の食文化交流も6年目を迎え地元でもすっかりお馴染み！各200食も瞬く間に完食！！



会場である萬寶院仮本殿の合同慰霊碑には震災で亡くなった大曲浜地区1110名の方の氏名が刻まれている。震災から6年。月日を経ても大切な人への思いが変わることはない。

会場中央に立てられた高いポールを中心に放射線状に、外周にと渡るロープに、当日集まった支援者や参加者で更に鯉のぼりの追加掲載を手伝った。まるで地面から無数の青い鯉が天に向かい活きよい良く大空を昇るかのよう。

“青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会”の継続を願い募金を声掛け。この6年間、手を携えてきたこの青い鯉のぼりプロジェクト発起人であり代表の伊藤健人さんを通し全額寄付。



地元ふるさとを表す曲目“陸奥(みちのく)”の演奏では、当法人が震災直後より“GFSC希望の和太鼓プロジェクト”で3年間寄り添った石巻市雄勝中学校の在学学生・OBからなる太鼓チーム“沙嵐”も演奏に加わり地元応援に勇姿を披露。



会場は例年、懐かしい再会の場



また来年会いましょう！
心を一つに！皆の思いを未来に繋げよう！

GFSC 東北Hope Community Project Ⅲ<岩手県>

岩手県大船渡 日韓文化交流による被災地への心の癒し



2012.7.16 岩手県で活動する<Child Fund Japan>地元NPO団体の要請に応えコミュニティの崩壊の中、仮設住宅に取り残され困難な生活を余儀なくされている主婦の方々と言語・歌・料理・会話・ゲームで楽しむ様々な日韓文化交流をもった。定期的な希望のコミュニティ形成と支援活動により勇気と希望を与えた
(東海新報・テレビ岩手で大きく取り上げられ関心が高かった)



2012.07.17 東海新報

東海新報 6面掲載 2012. 07. 17

**隣国の文化に触れる
大船渡で日韓交流会**

大船渡市大船渡町の渡部商店街で開かれていたカルチャー教室で、日韓文化交流会が開かれ、参加した住民らが韓国料理教室や韓国語講座を通して隣国の文化に触れた。

交流会は同町の大船渡地区公民館で、大船渡市大船渡町の渡部商店街で開かれていたカルチャー教室で、日韓文化交流会が開かれ、参加した住民らが韓国料理教室や韓国語講座を通して隣国の文化に触れた。

交流会は同町の大船渡地区公民館で、大船渡市大船渡町の渡部商店街で開かれていたカルチャー教室で、日韓文化交流会が開かれ、参加した住民らが韓国料理教室や韓国語講座を通して隣国の文化に触れた。



内閣府提供でテレビ岩手放送による「手を、つなごう。岩手 ~明日への希望~」NHK

日韓交流による被災地復興支援活動に多くのメディアが関心を持ち取材した。(2012.7.17)



韓国東亜日報
2012. 5. 4

津波 絶望を追い払う呪文は「カギヤゴギョ」だった

津波 絶望を追い払う呪文は「カギヤゴギョ」だった

津波 絶望を追い払う呪文は「カギヤゴギョ」だった

津波 絶望を追い払う呪文は「カギヤゴギョ」だった

津波 絶望を追い払う呪文は「カギヤゴギョ」だった

Hope Community Project Ⅲ-1

“夢さんままつり” 2013.10.13 (日)

岩手県大船渡 夢商店街

2013.10.13

震災後、支援し続けてきた岩手県大船渡市 夢商店街の地域住民と連携して“夢さんま祭り”を応援、また共催するため札幌・東京の会員の皆様、被災地を応援する韓国各企業、文化芸術者と合わせて62名が参加。前回の夢さんま祭りの3～4倍の集客があり、かつてAKBや安倍首相がこの地を訪問した時に勝る人出で盛り上がった。

GFSC広報大使でもある韓国実力派ボーカリストFIXの熱唱、地元大船渡東校の伝統の大農太鼓の力強い演奏、宮城県石巻市雄勝中学校を我々と連携して支援する文化芸術団体の復興志縁有志“福面”による和楽器演奏が行われた。

大船渡名物の“さんま”を使った、食の日韓コラボ“夢さんまキムチ鍋”を炊き出し無料提供。初披露された“夢さんまキムチ鍋”は大好評で、わずか20分で完食となりました。

“夢さんま祭り”は“食”と“観光”と“音楽”を連携した、すなわち文化芸術を通した町興し・復興の第一歩と実感する一日になりました。



初披露!「夢さんまキムチ鍋」にも長蛇の列が!!



GFSC広報大使FIX が歌で祭りを盛り上げる!



「美味しく食べてね!」



「炭焼きさんま」美味しく焼き上げます



縁起の良い!!「祝」餅まき



青空の下で、韓国語講座



大船渡東高生徒達の息の合った演奏



宮城県石巻市で当法人と一緒に支援活動
を歩んできた3Dファクトリー所属。
復興志縁和太鼓プロジェクト「福面」の演
奏が心に響く

“夢さんままつり” 2014.9.28 (日)

2014.9.28

岩手県大船渡 夢商店街

今年で支援2年目の岩手県大船渡市“夢商店街”で夢さんま祭りが開催された。今年も岩手県大船渡市 夢商店街の熱い要請に応え札幌、東京からの応援団そして韓国企業と共に総勢85名で町興し復興に繋げる応援に参加。会場では、昨年の2倍の炭火焼きさんまや大船渡の新名物“さんまぱっとう”（さんまのすり身入り団子）を使ったNEWバージョンの日韓コラボ夢さんまキムチ鍋を500食無料提供。会場は昨年の集客を更に3倍も上回る人々が集まり盛大な盛り上がりを見せた。舞台ではGFSC広報大使の「MR.MR」の2回にわたる無料チャリティーライブや、当法人が3年間支援した宮城県石巻市雄勝中学校3年生の当法人への感謝と恩返しの気持ちを込めた遠征参加公演、当法人と青い鯉のぼりプロジェクト支援を共にする創作和太鼓駒の会の演奏で大いに盛り上がった。NPO法人日韓文化交流会とGFSCは文化芸術を通して東日本の復興推進活動を今後も継続していく。

NEWバージョン！「夢さんまキムチ鍋」にも長蛇の列！



大型で脂ののった「炭焼きさんま」



夢さんまキムチ鍋2015バージョンに
「美味しいね～」と絶賛！



縁起の良い！！「祝」餅まき



太鼓の実力校 大船渡東高太鼓部
演奏



「MR.MR」「4Crew」スペシャルステージ！



当法人が3年間支援してきた宮城県石巻市雄勝中学校の復興太鼓。片道3時間を掛けての遠征応援。たくましくなった姿で叩く太鼓演奏の音がこだまする！



当法人と「青い鯉のぼりプロジェクト」
を共にしてきた宮城県創作和太鼓
“駒の会” 和太鼓演奏で盛り上げる



GFSC広報大使 MR.MR
無料チャリティーライブ！



「美味しく食べてね！」
直接、手渡し



今年も「K-POPで学ぶ韓国語講座」を。
熱心に耳を傾ける



“夢さんままつり”

2015.9.27 (日)



Hope Community Project

2016.9.25

岩手県大船渡市茶屋町の仮設 夢商店街で“第4回夢さんま祭り”が開催された。夢さんま祭りは震災後岩手「大船渡市」地域住民(夢商店街)と文化芸術を通して東日本復興支援活動を推進するNPO法人日韓文化交流会とが連携して夢商店街の復興と活性化のために力を合わせて開催するイベントであり、今回で4回目となる。

バージョンアップした日韓コラボ”夢さんまキムチ鍋”を500食無料提供！



“夢さんままつり”

2016.9.25 (日)
岩手県大船渡 夢商店街



福島復興祭りふくしま＆韓国・食の祭典2013」 応援 IV <福島県>

2013.4.19～21

GFSC広報大使として‘FIX’が福島復興祭りで企画された「ふくしま＆韓国・食の祭典2013」に参加してチャリティ公演をし、郡山の人たちを魅了しました。今回の祭典は食を中心して日韓文化交流と福島の食の安全性を対外にアピールする目的で、郡山に避難している被災地の住民たちも多数参加しました。

郡山市日和田ショッピングモールで開かれた祭典で‘FIX’は毎日2回公演し、歌だけではなく、子供たちのためのダンス教室で子供たちとの触れ合い時間も持ちました。そして、町全体が避難されている富岡町には支援物資も手渡しました。



福島の食の安全をアピール



踊る子供の姿こそ福島の希望



4月の雪舞う中渾身の力を込めて
歌うGFSC広報大使 FIX



大震災と原発事故で町全体が避難
された富岡町に支援物資贈呈

日韓高校生 友情のキャンプ V (高高SUMMER)

韓国大使館と共催

2012.8.6～8.9 韓国大使館主催、当法人主管の日韓高校生による韓日高校生友情CAMP<高高Summer! 2012>において、両国は初めて最近社会的ニュースになっている日韓両国の共通の問題点「いじめ」をテーマに、実際いじめを受けた学生も多数参加し、専門家も交え討論、ロールプレイ、共同絵書き等により明るい未来・希望に向け交流をもった。両国の高校生は文化の違いの壁を、寝食を共にし、互いの言語を使う買い物体験や、言葉を必要としないダンスの練習等により文化の壁を乗り越え、さらに日韓友情を深めた



いじめは絶対ダメ！友情を深めよう。



いじめに関するロールプレイ



日韓高校生友情の木記念植樹 ～高麗神社～



いじめに対する討論会



いじめに対して日韓の高校生が真剣に取り組む姿をNHK,KBSなどが取材した



お互い焼いてあげるバーベキュー



良い友だちになりましょう！と誓う日韓高校生たちーキャンドルセレモニー

児童福祉施設支援及び交流 VI

《埼玉県》

2010年4月18日 キム・ナムギル



《北海道・札幌》

2010年2月7日 SHINee



2012年2月10日 ZE:A



2013年2月8日
BIGSTAR、D-UNIT



児童福祉施設支援及び交流 VI

2014年2月7日 NU'EST、MR.MR

《北海道 札幌・室蘭》



2014年9月2日室蘭、9月9日札幌 MR.MR



2015年2月6日 C-CLOWN



2016年2月5日 防弾少年団



2017年2月10日 Red Velvet



GFSC 文化芸術によるアジア貧困地域子供教育支援プロジェクト

<海外支援活動>

NPO法人日韓文化交流会は予てよりGFSC (Good Friends Save the children) として長い間日韓協力によるアジア貧困地域子供教育支援をおこなってきた。

日韓の大学生や市民が毎年参加し、モンゴルでは希望の学校 (After School) 食水支援、ネパールでは図書館建設及び図書の支援、カンボジア教育環境支援プロジェクトなど子供達に希望と勇気を与え美しい一つのアジアを作る未来指導者を育成して行くグッドフレンズプロジェクトを推進してきた。



モンゴル食水・希望の教室支援プロジェクト

(2009.7.23～

(2011.6.26～7.4)



幼稚園の
環境改善
活動



食水支援の井戸掘削活動



モンゴル希望の教室 (After School)

モンゴル、ウランバートルの劣悪な教育環境であるチンギルテ地域で貧困層の子供たちのためにアフタースクール運営に支援。

殆どの子供たちは学校が終わって家に帰っても電気不足と生活環境が大変なので勉強が出来ない状況である。この中で「希望の教室」は子供たちに新しい希望を与える場所になっている。

水汲みの仕事をして親を助ける為、学校に通えない子供達。
非衛生的な水で様々な疾病を引き起こす子供達
健気に頑張る子供達を温かく支えます



マンダル村長より感謝牌を受ける
その様子はモンゴルのメジャーテレビ局の
UBSニュースで紹介された



ネパール希望図書館建設支援プロジェクト (2012.1.9～15)



ネパール、海拔2400Mの山頂にあるブミマタ学校。
地域住民自治会と学校の要請企画に、ネパールNGO団体とGFSCが手を携え協力した。
図書館建設にカマチャラヤ校長は、教科書以外に本を持っていない学生に希望と
喜びを与えることとなるだろうと話し、地域指導者の育成につなげたいと情熱を語った。

GFSCはこの図書館プロジェクトを継続的に続ける為、本と建築用ブロック寄贈キャンペーンを実施している。



図書館は小さくても希望は大きい



トイレ建設と希望の教室(After School)運営などを支援します！

カンボジアのプニー柱住民たちは所得が月50～100ドルで、主に農業中心の農村貧民地域です。
 プニー学校は図書館もトイレもない学校です。今、子供たちが学校生活で一番困っているのは学校にトイレがないことです。
 校長先生は“学校環境があまりに劣悪だ。校舎1つに4教室しかなく、教師も不足している。図書館、職員室、給食室もないが、何よりトイレがないのが一番厳しい。”と語る。

長い内戦がようやく終わり、変化が続けているカンボジアだが、まだまだ教育施設は整備されず、多くの子供たちは厳しい環境に置かれている。
 しかし厳しい環境の中でも、住民たちは教育に熱心な関心を持っている。
 GFSCはカンボジアの子供達だけでなく、多くの人々に希望を持ってもらうべく支援します！



授業は午前中で終わる為、放課後に行なう「希望の教室」は、生活礼儀を身に付けられると、学校側も住民たちも大歓迎した。
 特に、衛生問題で重要な役割を果たすトイレ建設が強く求められている。

GFSC希望の和太鼓プロジェクト I

希望・夢韓国修学旅行Present <報道紹介>

KBSニューズ 2012年8月22日

東日本大震災の日本の学生
“韓国ありがとう”



<アンカーコメント>

日韓両国間の関係は非常に冷たくなったが、温かい情を分け合おうとする民間の交流は止まらなかった。

昨年の津波被害の時に、韓国から援助を受けた日本の中学生たちが感謝の気持ちを伝えようと、私たちの国へやってきました。

<レポート>

おじいさん、おばあさんの前で日本の伝統の太鼓を何度もたたく学生達

昨年の日本の津波被災地域から来た学生達だ。

当時、韓国から送られた援助に感謝の意を伝えようと慰問公演に来ました。

<インタビュー> 牧野(石巻市立 雄勝中学校 学生):「地震で母が亡くなりました。優しさを感じ取ってもらえるように。」

韓国の中学生たちと太鼓演奏の交流もしました。

ソウル市を訪問して、消防官の救助活動と支援に感謝を伝えた。

<テープ>「韓国の方たちの恩を忘れません。」

故宮を訪れ、韓国の伝統文化にたいする理解も広がりました。

恩返しのための訪問だったが、思いもよらないおもてなしに、日本の学生たちは再び感動した。

<インタビュー> イ・ドウス(NPO法人日韓文化交流会 企画部長):「韓国の皆さんが温かく接してくれるのを見て感動と感激し...。」

日本の学生たちは、韓国の学生たちの日本の訪問を推進する、相互交流を継続していくことにしました。

竹島の問題で、日韓葛藤が深まっていますが、災害支援と恩返しをきっかけに、一つの民間交流は続いています。

NHK 2012年8月22日

被災地中学生 韓国で太鼓演奏

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた宮城県石巻市の中学生が韓国を訪れ、韓国からのさまざまな支援への感謝の気持ちを伝えようと、太鼓の演奏を披露しました。

日韓の交流事業を行っているNPOの招きで今週から韓国ソウルを訪れているのは、石巻市立雄勝中学校の生徒と教員ら合わせて79人です。

生徒たちは、韓国から被災地に寄せられた様々な支援への感謝の気持ちを伝えようと、21日、ソウル中心部の屋外の舞台で太鼓の演奏に臨みました。

生徒たちは、津波で流されてしまった和太鼓の代わりに、古タイヤやテープなどで作った太鼓を使って、息の合った演奏を披露しました。

日韓の間ではこのところ、島根県の竹島を巡って外交関係が冷え込んでいますが、21日のイベントには大勢の観客が集まり、日本の被災地から訪れた子どもたちの熱演に温かい拍手を送っていました。

会場ではソウルの中学生たちも太鼓を演奏し、演奏を終えた両国の子どもたちは、握手をしたり一緒に記念撮影をしたりして交流を深めていました。

雄勝中学校の生徒会長の伊勢直也さんは、「これからも太鼓を通じた交流を続けたい。今度は韓国から日本を訪れてほしいです」と話していました。

GFSC希望の和太鼓プロジェクト I

希望・夢韓国修学旅行Present <報道紹介>

宮城・石巻市の中学生が韓国で太鼓披露 震災支援に感謝の気持ち

FNN 2012年8月22日



震災で支援を受けたことに感謝の気持ちを伝えようと、宮城・石巻市の中学生が韓国で太鼓を披露した。

石巻市の雄勝中学校の生徒たちは、津波で失った和太鼓の代わりに古タイヤを使った太鼓で力いっぱい演奏。

韓国の人たちに感謝の気持ちを伝えた。

また、韓国の中学生も太鼓を演奏し、竹島問題などで日韓関係が悪化する中、両国の中学生たちは友好を深めていた。

復興支援に感謝 韓国で「輪太鼓」
石巻・雄勝中生
【ソウル共同】東日本大震災での韓国の復興支援に感謝を伝えようと、被災した石巻市雄勝中学校の生徒約40人が21日、ソウル市内の野外ステージで廃タイヤを使った「復興輪太鼓」を演奏した。竹島問題で日韓関係が冷え込む中での公演となったが、迫力ある演奏は、訪れた約300人の聴衆から大きな拍手が送られた。

雄勝中は校舎が津波に襲われ、愛用していた太鼓も流された。代わりに廃タイヤにビニールテープを張った「輪太鼓」で練習を重ね、鎮魂と復興への願いを込めて各地で演奏している。

津波で目を失った3年生の伊藤拓哉さん（18）は「今こそ、うしろの太鼓をたたけるのも多くの方々の支援のおかげだ。今日は書の演奏がきれいにとろい、感謝の気持ちがよく伝わったと思う」と満足そうに話した。

これに先立ち、生徒らはソウル市役所を訪れ、朴元淳市長と面会した。朴市長は「大変な環境でも諦めず、たくましく乗り切った皆さんの姿に感動した」と述べた。

生徒らは19、23日の日程で訪韓し、韓国の中学生らとも交流。熊谷雅幸教諭は「出発前は保護者から不安の声もあったが、いざ来てみると皆さん親切で安心した。生徒にとっても忘れられない思い出になったと思う」と話した。

復興支援に感謝 韓国で「輪太鼓」
河北新聞 2012年8月



21日、東日本大震災での韓国の復興支援に感謝し、ソウル市内で「復興輪太鼓」を演奏する石巻市雄勝中の生徒たち

韓国を訪問した日本の大地震の被害を受けた学生達
中央日報 2012年8月21日

21日午前、ソウルの市庁別館で、希望・夢 韓国の旅プレゼントで韓国を訪問した雄勝中学校の学生達が、パク・ウォンスン市長と対話をしながら明るく笑っている。昨年の東日本大震災当時、最も被害が大きかった石巻市に位置する雄勝中学校の学生たちは「希望・夢 韓国の旅プレゼント」を機会に自分たちを助けてくれた、韓国の人に感謝の気持ちを伝え、太鼓の公演を通し韓国とのより緊密な交流を持とうとソウルを訪問した。



東亜日報 2012年8月21日



GFSC希望の和太鼓プロジェクトⅠ 希望・夢韓国修学旅行Present <報道紹介>

20日、午前ソウルのNソウルタワーで
日本の宮城県石巻市雄勝中学校の学
生達が望遠鏡でソウルを見学している。

「私たちの気持ちが韓国の友達にちゃんと伝わっているか気になります。最近韓国と日本との関係が良くないと知っていますが、これから争わずに仲良く過ごせるといいです。また韓国にもう一度来たいです。」

20日、午後ソウルの三政中学校の講堂で、合同練習を終えた横江(14)さんが笑顔でこう語った。彼女の前には、廃タイヤにビニールかぶせた太鼓が置かれていた。黒いシャツの背中には「たくましく生きよ」という白い文字が書かれていた。

昨年3月に発生した、東日本大震災の被害を受けた日本の宮城県石巻市の雄勝中学校 学生39名と教師 10名が、大地震当時、助けてもらった韓国の人々に感謝の意を伝えるため韓国を訪れた。

彼らは三政中の学生達との合同練習に先立ち、この日の午前、社会福祉共同募金会を訪問しキム・ジュヒョン事務局長に感謝の手紙を渡した。学生の代表として伊勢直也(15)君は「昨年の被害で家と学校を失い多くの挫折を覚えた、周囲の助けを借りて立ち上がるようになった。」とし「将来、日韓間の交流を促進するために貢献したい。」と語った。社会福祉共同募金会は、昨年の3月の大地震以降、国民送金募金運動を展開し、100億ウォンを超える金額を集め、日本の共同募金会に渡している。この送金は宮城県、岩手県、福島県、茨城県、千葉県など5県の被害復旧作業に使われた。

19~23日、韓国に滞在している学生たちは21日午後、鐘路区仁寺洞で三政中の学生達と合同公演を開き、この他に多様な文化交流活動も行う予定だ。

大地震が発生してから1年5か月が過ぎたが、今もなお雄勝中学校のグラウンドには地震と津波の跡がそのまま残っている。校舎が無く授業は、近くの高校で行っている。しかし、学生達は太鼓を通し、少しずつ希望をみつけている。太鼓で有名だった地方ですが、太鼓が全て波に押し流され、廃タイヤにビニールを巻いた太鼓を作り叩き始めた。彼らの太鼓の公演は放送を通し、日本の地域に紹介されながら絶望の淵にいた国民たちに希望を伝えた。

雄勝中学校の早坂信也(56)校長は「災害と怒りと絶望が、助けをいただいた皆様に対する感謝と希望に変わっています。おかげさまで、以前の生活を少しずつ取り戻している。」とし「本当に心から感謝申し上げます」と語った。

最近、冷却された日韓関係は、両国の中学生たちの間に何の問題にもならなかった。練習が終わり、韓国と日本の中学生たちは気兼ねなく、肩を組み一緒に写真を撮るのに忙しかった。三政中の学生たちは雄勝中学校の学生達の名前が一つ一つ書かれている韓国の伝統団扇をプレゼントし、日本の学生たちは「たくましく生きよ」と表面に書かれたファイルを渡した。

イ・ドウス NPO法人日韓文化交流会 企画部長は「「たくましく生きよ」は、雄勝中学校の校訓で、東日本大震災が発生する2時間前に、当時雄勝中学校の校長が卒業式で、そのテーマで祝辞を読んだことで、その意味がより一層格別なものとなった。」と語った。NPO法人日韓文化交流会は「GFSC(Good Friends Save the Children) 希望・夢 韓国の旅プレゼント」のプログラムを通し、今回の日本の学生たちの訪問を企画した。

三政中 2年生 パク・ジヒョン(14)さんは「日本の学生に初めて会いましたが、私たちが思っていたイメージととても違っていました。今度は、私たちが雄勝中学校に行って公演をしたい。」と語った。

GFSC 希望・夢 韓国 修学旅行Present 報道紹介

スポーツ韓国 2012年8月13日

チョン・ヨンファ、パク・シネ、イ・ホンギ

GFSC ‘希望・夢 韓国の旅プレゼント’ 行事に参加

GFSC ‘希望・夢 韓国の旅プレゼント’ 行事に参加

ドラマ ‘美男ですね’ の主人公達が、意義深い席に集まる。

グループ CNBLUEのチョン・ヨンファ、FTISLANDのイ・ホンギ、俳優パク・シネが21日、仁寺洞で昨年の東日本大震災で被害を受けた子供達を激励する。昨年3月、東日本大震災当時、被災地域に支援し元気を与えた彼らが、再び意味ある行事に参加する。

今回の行事はGFSC組織委員会で主催する ‘希望・夢 韓国の旅プレゼント’ の一環として企画された。東日本大震災の最大の被災地である、宮城県石巻市の雄勝中学校の学生たちと関係スタッフなど80名あまりが参加する。チョン・ヨンファ、イ・ホンギ、パク・シネは、この日サプライズ登場し、学生たちにプレゼントを贈呈するなど激励予定だ。

GFSC側は “今回の旅は韓国の美しい山河を見て、災害による辛い過去を克服し、今まで声援を送り続けてくれた韓国国民に被災地域の住民たちを代表し、心からの感謝の意を伝える場になるだろう” と語った。

‘希望・夢 韓国の旅プレゼント’ は、19日から23日まで行われる。南山、弘大、徳昌宮、仁寺洞などソウルの主要地域を観光し、日韓交流のため文化公演も行われる。

